

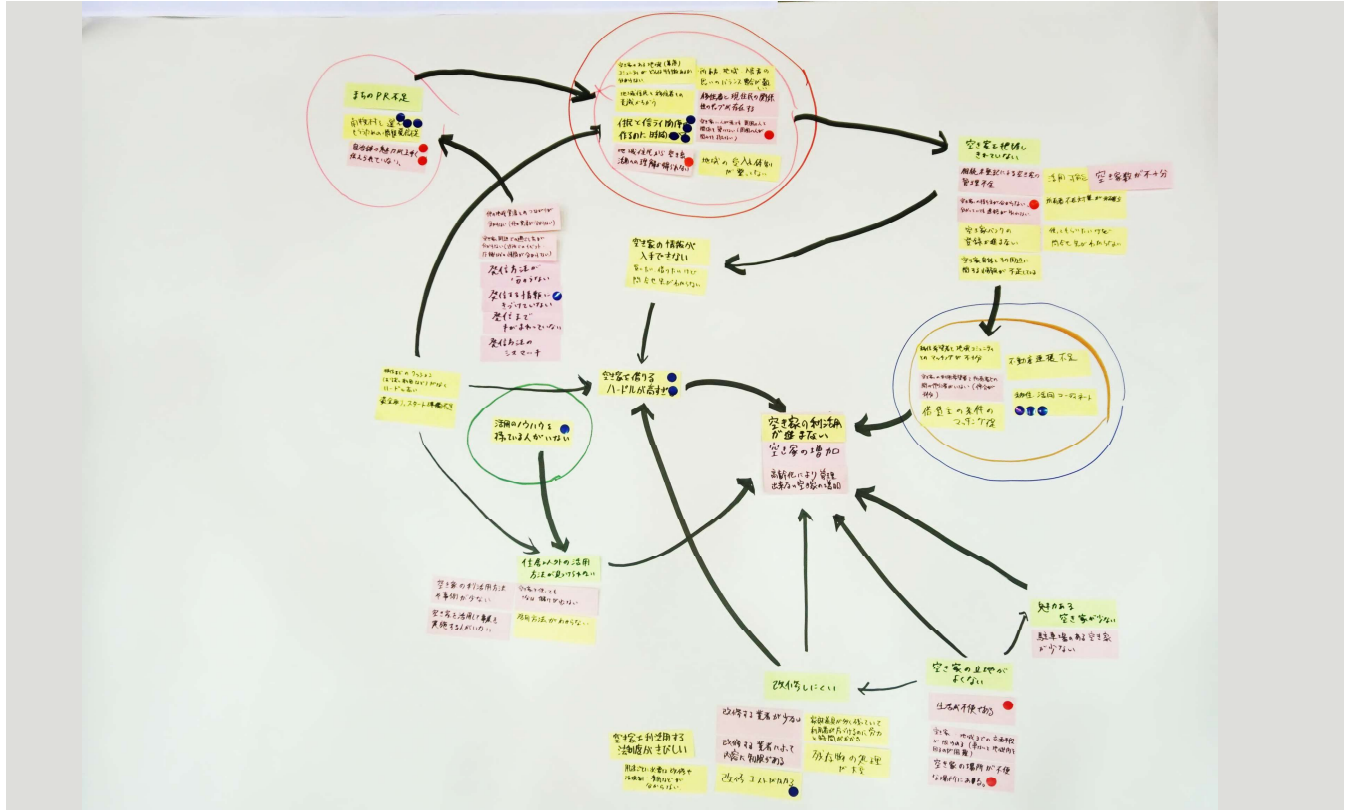
地域資源としての空き家の利活用

自治体名

南牧村

課題の構造図

テーマについて詳しい方や対象者へのヒアリング、自分自身の経験などから、チームのメンバーで課題を引き起こしている要因同士の複雑なつながりを紐解き、整理した図です。



フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントを絞るといいかを定め、誰の・どんな行動を・どう後押しするのかを、「問い」のかたちにまとめました。

1 空き家利活用のメリット周知不足

空き家利活用のメリットをうまく伝えられていない行政が、地域住民に対して空き家利用率が上がるメリットを説明することで、空き家を利用しようとする機運を村全体で高めるために、何が可能か？

2 古民家の魅力が十分に発信できていない

新たな暮らしをしたい移住者が正確な情報を知ることで、自分の望む暮らしを実現するために、何が可能か？

3 地域住民と移住者のミスマッチ

村の古民家の魅力をうまく発信できていない行政が、古民家を活用して起業を検討している人に、村の古民家の魅力を発信することで、南牧村の古民家を選んでもらうために、何が可能か？

未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

<p>なんもく 高齢化ラボをつくる</p>	<p>シニアとベンチャーの共創で、高齢化ラボをつくり、暮らしの学校（大人向け、子ども向け）や防災拠点・民泊を官民連携で創出する。その他のアイデアでは古蔵書ライブラリーや防災運動会、まちごと合宿所も。</p>	<p>空き家の理解促進、啓蒙活動</p>	<p>空き家の活用から事業開始までの経過を村内で説明する会を開く。また、空き家新聞や情報発信を通じて、定期的にシェアする。管理できなくなった場合の問題を情報発信したり、税に関する住民勉強会を開き、積極的に広報で事例を発信する。</p>
<p>なんもく お手伝い会社をつくる</p>	<p>村内にいる移住者によるお手伝い制度。移住者が地域を見守ったり、草むしりや掃除や個人の技能を活かしたサービス提供をする。また、物物交換や物・サービス交換、交流サイトの運営や、村外の子供・孫世代への情報発信もする。</p>	<p>なんもく R不動産をつくる</p>	<p>空き家物件が出たときに、行政が村内やネットで、情報を発信し、メリット・デメリットを正確に伝えたり、古民家のバラエティー情報発信をする。体験入居制度や使い方提案サービスも行う。</p>